

閉会のあいさつ（糸魚川総合病院 病院長 山岸 文範）

先ほど僕自身が皆さんにお願いしたいと考えていたことを述べる機会をいただいたが、私個人も病院も、糸魚川市も県も、産婦人科医の募集を停止したわけではない。今も継続しており、手挙げがあれば、その可能性を探っていきたいと思っている。ただ、世の中のその進みというのは、やはり集約化に向かっていると思う。しかし、集約化によって実は良いこともある。別の機会にそのデータを皆さんにお示ししたい。皆さんの健康、子供さんの安全性などを含め、小さな病院がいくつもあるよりは、大きな病院があって、それに連携していくというシステム自体が非常に重要な鍵であり、これから糸魚川のみならず、日本全体を助けていくものだろうと思っている。

私達は人口が減るというところで、こういった目に遭っている訳だが、僕が生まれた昭和の時代、このときは人が増え、ものが大きくなる時代。平成の30年間というのは何も変わらなかった。僕ら自身が僕も含めてですけども、ものを考えるということをおぼれていた。10年前に日本の人口のピークが来て、今減り始めている。この中で僕らはそれを危機と呼ぶこともあるが、チャンスでもあると思う。必ず、より良い医療を提供できるようなものが作れるというふうに僕は考えているし、その方向で物事を進めていきたいと思っている。その中で先ほどもお話ししたが、一番重要なのは皆さんの参加である。決して国とか県とか、それから単独の病院に任せることなく、皆さんがそれぞれ情報、意見を発信していただきたい。そして、協力しながら物事を前に進めていきたいと思う。その事をお願いして、今日のフォーラムの終わりの挨拶にさせていただきます。本当に長い時間、ありがとうございました。